

授業科目名	文化施設運営論	担当教員	尾西 教彰 近藤 のぞみ
必修の区分	必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第1クォーター		
講義内容	<p>この科目は、アートマネジャーの最も大切な職能の一つでもある、文化施設の企画と管理運営のスキル、舞台機構などの技術に関する知識、法規などの制度面、経営面、ホスピタリティなどの諸側面から論じ、実践に出るための土台を養成する。</p> <p>また、劇場や音楽堂等の文化施設が、地域の文化拠点および社会基盤として果たすべき役割、今日的課題、将来の可能性について、劇場や創造団体のプロデューサー、アーティストといった多様な視点から、グループワークなども取り入れながら具体的に考え、議論する。</p>		
到達目標	<p>①文化施設の歴史、運営の仕組みを説明できる。 ②文化施設内の仕事を理解し、専門知識を得る。 ③文化施設の社会的役割について、議論できる。 ④事業企画の立て方について理解し、企画することができる。 ⑤文化施設の機構や設備、活用法について説明できる。</p>		
授業計画	<p>①ガイダンス（尾西、近藤）</p> <p>■組織と運営、維持管理業務について</p> <p>②文化施設という存在 ―使命と役割―（尾西） ③文化施設の歩みと歴史 ―劇場は何のために必要か―（尾西） ④文化施設運営の基本 ―業務、組織、財源―（尾西） ⑤劇場空間 ―機構と設備―（尾西） ⑥施設の維持管理 ―法令順守、安全・リスク管理―（尾西）</p> <p>■事業企画を考える</p> <p>⑦制作実務について1 ―企画の視点（近藤） ⑧制作実務について2 ―企画・予算の立て方―（近藤） ⑨制作実務について3 ―広報・宣伝―（近藤） ⑩制作実務について4 ―営業・票券・表方―（近藤） ⑪劇場を活かす、地域を活かす ―地域状況を踏まえた劇場活用を考える―（近藤）</p> <p>⑫全体のまとめ ―文化施設の役割と課題―（尾西、近藤） グループ別発表、試験、レポート</p>		
事前・事後学習	事前リサーチや、授業中に配布する資料等による振り返りが求められる。		
テキスト	特になし。		
参考文献	適宜指示する。		

成績評価の基準	授業への取り組み (40%)、レポート・発表 (30%)、テスト (30%)
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	グループワーク及びプレゼンテーションがあります。